

霊水と共に

発行 法華寺
No.11
2020.5
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華

寄り添いの寺 法華寺



四月 開山忌のご報告

新型コロナウイルスの影響で、人々の集まりを避けることが必要となり、當山も、「日隆聖人五五七回忌の開山忌は、檀信徒さまの参集なしで、寺院内の僧侶のみで執り行いました。

例年通りのお塔婆供養のお申し込みも多数いただき、速夜法要、祥當法要ともに無事厳修いたしました。

読経中、例年お見えになる檀信徒の皆様が、今、どのように過ごされておられるのか、色々なお顔や表情が浮かびました。



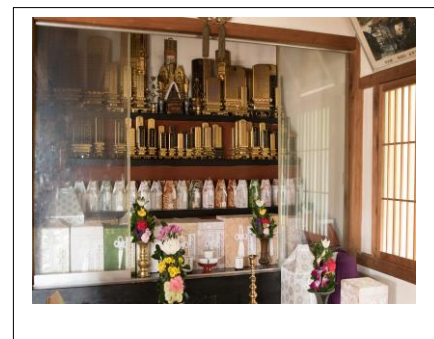
今回の、ウイルス禍について、檀信徒の皆様も色々なことを感じておられると思います。

私も、何ができるのか模索しています。まず人としては、「助け合う」「譲り合う」「迷惑をかける」などですが、僧侶としてできることは、また少し違ふと考えています。それは、仏教の立場から、発信することです。

その昔、日蓮大聖人が、出現された鎌倉時代は、疫病、大災害、大飢饉により多くの人が亡くなり、地獄のような様子だったようです。

その有様をみて、大聖人は「これは、ずいそう瑞相・素晴らしいことの前触れである」と仰せられたのです。つまり、社会が追い詰められ恐ろしいことが起こっている時、その後には人々が目覚め、真に仏を信じる時代が来ると言われたのです。

その後、大聖人は八百年続く教えを開かれ、今も我々を導いてくださっているのです。



當山の本堂には、江戸時代、それより前の古いお位牌がたくさん祀られています。

戦争や空襲で亡くなった方、また災害や疫病で亡

くなった方、また、そのようなことで家族を失い一人ぼっちになった方もおられます。その事實は、人の営みの中、もっと悲惨で辛い時代がいくつもあつたこと教えてくれます。

『人には寿命があり、それは突然来ることもある』という単純な理屈を忘れて、目先を生きてしまうのが人間です(私もそうです)。楽しい時、うれしい時もあります。辛いとき、苦しい時もあります。

我々僧侶は、笑える時も泣き叫ぶ時も、どんな時でも「神仏」「宗祖」「ご先祖さま」がやさしく、あなたかく見守ってくださいていることを感じています。その温かい光の中で「今、ここをしっかりと生きる」しかありません。身の振る舞いは、その人の「業・ごう」として、生き死にを越えて残り続けますが、まずは、「今、生きていくこと」に感謝です。

ご法事・ご回向(月参り、祥月、彼岸等)についてのお知らせ

緊急事態宣言の先が見えない中、今後の社会の様子や変化、各地域やご家庭のご都合にあわせて、いくつかの形をご用意いたします。形は様々でも、亡き人を偲ぶ「法要・供養のこころ」が一番の中心に据えたいと考えています。

① 『従来通り、各ご家庭での年忌法要・回向参り』

② 『お寺の本堂での年忌法要・回向参り』

ご休憩、お食事は客殿をご利用ください。

堂宇は広く、風通しも良いです。



法華寺 客殿

③ 『ご在宅のままでの年忌法要・回向参り』

「非常事態などで家から出られない」

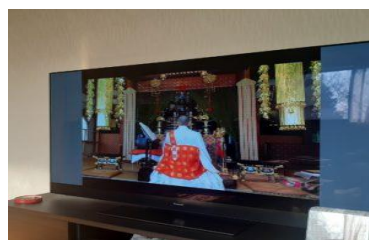
「入院、遠方などの都合で、身動きが取れない」時

本堂で、住職がお勤め(年忌法要では塔婆供養)し、その映像をお送りするというものです。映像は「DVD をお送りする」「YouTube 動画に編集して、そのお家限定で、ラインや QR コードで配信する」の二通り、又は両方をご用意できます。

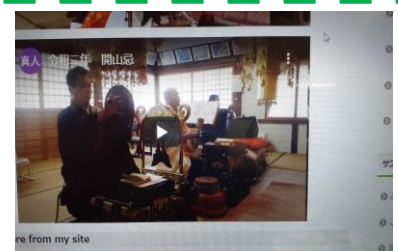
※スマホやパソコンに不慣れな方もおられますが、若い世代にお手伝いしてもらうことで「供養文化」が伝わることもあるかと思えます。また映像や動画を遠方の御親戚に見ていただくことも、一つの供養の方法だと思えます。



読経映像の DVD です



DVD の映像の中味です



開山忌の YouTube 画像です